

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 5月 29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490900150		
法人名	株式会社サンクリエイト		
事業所名	西町グループホーム		
所在地	広島県三原市西町一丁目10番8号 (電話) 0848-62-9531		
自己評価作成日	平成30年4月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490900150-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年5月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

川辺で穏やかな環境の中、入居者様一人一人が無理なく互いに意見を尊重しながら日々を楽しく穏やかに生活が送れるよう支援している。入居者様と職員が遠慮なく家族のようなふれあい、会話の出来る環境を作っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

街中の立地であるが、静かで穏やかな川の流れが側にあり、水鳥の鳴き声が聞こえてくる施設である。利用者とのコミュニケーションに力を注いでおり、管理者は、まず話を聞く、横に座って話すこともケアの大事な一環であると職員に伝え実践に努め、会話の中で意向や思いをしっかりと汲み取ることができている。希望でも、できることはすぐに実現をすることで利用者の喜びとなり、信頼関係構築にも繋がっている。食事も個々のペースでゆったりと摂ることができ、和やかな雰囲気がある。管理者の理解のもと、意見を上げ易い環境となっており職員間でも、お互い言い易く関係も良好である。洗濯機を三台（口にする物用、普通用、汚物用）と分けており、衛生管理にも意識が高い取り組みがある。避難訓練も外部の管理サービスを委託し、第三者の専門的な視点や助言を得ながら向上を目指している。運営推進会議にも利用者が参加していけるように考えている。
--

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全職員の名札の裏に、施設の基本理念を明記し、日頃から基本理念を念頭に置いた援助を心がけています。	開設時から「自分らしく」「心に添った暮らしの提供」という施設理念を基に、利用者に寄り添い日々実践している。職員の名札の裏側に理念を記載し、各職員が定期的に確認できる様に携帯している。管理者は、随時確認を促すことで理念に沿った支援が職員にも浸透し取り組みが実践できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事場所の提供をしながら、行政・包括・地域高齢者・地域住民と触れ合う機会を設けています。	市内の中でも高齢化が進む地域にあることで、直面している課題を含め地域の方と話しをする機会を設けている。地域包括支援センターから「元気づくり教室」といういきいきサロンの開催場所の協力要請があり、地元地域の方の参加の中に利用者も加わる形で地域の方と協働した例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	推進会議等で町内会長や民生委員さんと話をする中で、施設の現状を話しながら地域の方にも理解を深めて頂けるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度実施し、家族様代表・民生委員・町内会長・地域包括センター・市役所職員に参加して頂き、施設の現状報告やより良いサービス提供に向けた話し合いを持っています	会議には家族代表、行政関係、地域の民生委員、自治会長など、各関係者の参加があり事業所の取り組みの報告をはじめ、活発な意見交換を行っている。資料には写真入りのもので紹介を行い 参加者に、より事業所の取り組みが分かりやすくする工夫がある。議事録は家族全員に送り周知に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	疑問や相談等あれば、都度高齢者福祉課の職員に相談し助言を頂けるよう連携しています。	運営推進会議に市の担当者、地域包括支援センター職員の参加があり、意見交換や情報交換を行っている。役所に立ち寄ることがあれば、担当課へ会話をし帰ることや、必要時には都度相談し協力関係を築いている。市が主催の研修会への参加や、いきいきサロンでの協力も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員同士の声かけ・見守りを行い、定期的に研修を受けて身体拘束をしないよう努めています。	職員が講師役を務め実施する形で研修を計画し、実施時の理解の浸透を深め、管理者からマニュアルをしっかりと見ていくことの重要性を職員に都度促し意識を高めている。ケアの実践の中でもベッド横にクッションマットやセンサーを活用するなど、個別の状態をみながら気づきを大事にし検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を受けることで、日々職員が自覚しながら援助を行うように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間の研修内容に取り入れて、全職員に周知を図っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず管理者が、入居前・入居時・退居時に十分な説明を行い納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を設置し家族様からの要望等は、職員一人一人が把握できるよう申し送って、反映できるようにしています。	横に座って話すのもケアの大事な一環であるということを指導し、職員はそれを理解し利用者と話す機会を多くとれるように、個々の思いの把握に努めている。希望も、できることはすぐ実行に移し利用者の楽しみに繋がっている。家族への連絡も多々行い、都度の意向の確認や運営推進会議の意見も報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度フロアミーティングを行い、意見や提案を出し合って業務連絡を行っています。また、随時担当者会議を開催し運営に関する連絡等も行っています。	月一度の職員ミーティングで活発な意見交換が行われており、ケアの中でも管理者が随時声を掛けることで職員の思いや希望を聞いている。上がった意見は全体会議にて提案している。管理者は職員がやりたいことに添うよう理解があり、全体としてのまとまりが生まれている。個人面談も必要時に実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者によるヒヤリングを通し、職員個々の状況を把握し環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時研修会への参加を促し、施設での伝達研修を行うようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域での研修会を通じて、顔馴染みになり情報交換を行っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	管理者が施設見学の際、家族様・本人様と面談を行い、納得・安心して頂ける関係作りに努めています。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用時に、サービス内容を詳しく説明し、本人様家族様の要望等その都度確認し、信頼関係が保たれるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居される前に必ず居住されているところへ出向いて面談を行い、必要とされる支援を含めたサービスプランになるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人様の体調を考慮し、家事や作品作りに協力して頂いています。家庭的な雰囲気を作り他入居者や職員とも良い関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時等に、その都度近況報告して家族様とも良い関係を築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様本人様の希望がない限り面会者の規制は設けず、どなたとでも楽しい時間が過ごせるよう支援しています。	個人の思いや過去の生活のアセスメントをしっかり行い理解したうえで、以前住んでいたところへのドライブ、なじみの場所を散歩し、家族の協力を得て墓参りや昼食を食べに出かけた事がある。ボランティアにも顔見知りの方がいることで、話をしたりと繋がりを意識した関係の継続がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様が孤立を感じることがないように他入居者や職員と話をしたり、作品を作ったり、レクを行い楽しい時間を過ごして頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても情報・書類は保管し、家族様からの相談等あれば直ぐ対処できる体制をとっています。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様それぞれに担当者を決め、本人様の希望を把握し援助に反映できるよう努めています。	まず話を聞く！を重視し、できることはすぐに実践し、家族の協力も得ながら取り組んでいる。外食の希望が多い傾向にも多くを反映している。施設での過ごし方も個人の生活習慣を大切に、遅くまでＴＶを見て過ごしたり、ビールの希望にノンアルコールビールを数名で楽しんだりと思いの生活への支援がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前・入居時のアセスメントで、家族様や本人様に今までの暮らしぶりをお聞きしたり、また普段のコミュニケーションからも情報収集できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人様に無理のないよう、ペースに合わせた生活を送って頂いています。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者様担当者が、モニタリングや見直しを行い、月に1度のフロアミーティングで意見交換し、ケアプランに反映させています。	日々の関わりや会話から、本人の本音を理解できるよう意識している。担当職員を設け利用者・家族から詳しく意向を汲み取り、月一度の職員ミーティングで話し合い、記録を丁寧に落とし込むことや申し送りノートを活用し職員全員で共有しながらケアプラン作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りノートを活用しながら情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	随時、家族様・本人様からの要望があれば変更や追加をして、ニーズに応えられるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターの協力を得ながら地域の資源を活用していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、協力医院（内科・歯科）の往診や、急変時には他病院の紹介等対応して頂いています。	入居時に以前からのかかりつけ医も選べることを説明しているが、ほとんどの方が継続はなく協力医の対応となっている。協力医の親身な対応があり、往診ファイルで情報を共有している。他の専門の受診には、家族の支援をお願いしながら適宜受診できている。看護師の配置もあり、必要な医療が受けられる環境が整っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在は正看護師が不在であるが、5月半ばより正看護師による健康観察や処置を受けられるようになります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーによる情報を提供し、退院時には看護サマリーによる情報提供を受け、施設での安全な生活が提供できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の受け入れ施設の申し込みをして頂き、当施設でもできる限り終末期に向けたケアが提供できるよう努めていきます。	看取りを行うことを始めており、研修や勉強会の開催などで準備や体制を整えることに力を注いでいる。重度化した場合の指針もあり、重ねて主治医、家族との相談を行いながら一番良いベストな状況になるよう連携しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急隊員から急変時の対応やAEDの使用方法を学び、随時施設内では准看護師による勉強会の開催に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回災害訓練を実施し、マニュアルに基づき自然災害に対応できるように訓練を行っています。	災害別に想定のマニュアル整備がある。年2回の訓練実施に外部のサービスセンターに委託する形で行い、訓練の総括や助言を受けより実践に対応できるよう行っている。同時に消火設備点検も管理依頼し整備している。地域の方にも避難場所の協力や年1回合同訓練を開催し、隣接の家々にも協力の理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助が必要な時は側に行き行って声をかけ他者に配慮しています。個人個人の性格を把握しその方にあった声かけを行っています。	市が主催する研修に積極的に促し参加するなど日々の研鑽を心がけ、個人情報の取り扱いやプライバシーの侵害の理解を深めている。信頼関係の構築や、言葉遣いも馴れ合いにならぬように注意しながら距離感や個人の特性を把握して、豊かなコミュニケーションがとれるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中から希望を聞き出したり、多様な選択肢を設け、本人様に選んでいただけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今までの暮らし方を考慮し、楽しみのある充実した暮らしができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問利用を依頼しています。日常着は本人様に選んで頂いたり、昨日着ていた服と全く違う印象の服を選んだりしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食に、たこ焼き・お好み焼き・焼きそば等メニュー変更し楽しく作っています。おやつには既製品だけでなく手作り感のあるものや綿菓子と一緒に作り喜びました。	日々の関わりの中から意向を汲み取り、その都度食材の変更をしたり、敬老会などの行事食や外食を取り入れたり、ホーム内でたこ焼きやお好み焼きなど楽しく一緒に作れるものを企画したりと、食事が楽しみになるよう実践している。お盆を拭いたりなどできることにも役割として活躍の場としている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取が難しくなった方には、普通食→一口大→刻み→ミキサー→ムース食へと随時変更し対応しています。米飯も、軟飯→お粥→お粥ミキサーへと対応しています。経口摂取に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施しています。必要に応じ、歯科医院より歯科衛生士の口腔ケアをお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表による定時誘導やパッド交換を行っています。トイレでの排泄に心がけています。	利用者個々の生活記録や排泄表を丁寧に観察し、その方の状態に合わせた対応ができるようにしている。結果、パットや紙パンツの使用量も減った例がある。状態に合わせポータブルトイレを使用するなど、その時その時の対応で利用者からも排泄の不安が軽減し安心できる生活に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事・水分摂取量を確認し、不足時には補い、便秘が続く時は主治医の指示の下緩下剤を使用して排便コントロールを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2～3回の入浴援助を行っています。入浴は1対1で、入浴剤で温泉気分を楽しんで頂いたり、歌の好きな方には大きな声で歌を歌ってもらい入浴を楽しんで頂いています。	週2～3回の頻度にて、利用者もゆっくり着ける午後の時間から、1日2～3人の入浴を行っている。気が向かない日などは別の日に変更したり、足浴や清拭なども個人の生活習慣や様子に合わせて随時柔軟に実施している。入浴剤の使用や歌を交えながらなど、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	本人様の希望を聞きながら無理 なく暮らすことができるよう、食 後の休息を促したり一人の時間 も大切にできるような個室対応 となっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	主治医が処方した内服薬は、か かりつけの薬局よりお持ちいた だいて、職員が個別で管理して います。薬の書類はまとめて保 管し、個別に整理し、わかりや すくしています。内服薬変更時 は、薬局が持参時に報告を受け 服薬後の経過観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家事・軽作業・レク・体操など で、気分転換に併せて身体機能 の維持に努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	日光浴や散歩、近隣へのお花 見散歩を実施しています。食 材の買い出しに一緒に同行して 頂いています。	外出に趣を置く職員も多く、 その意識は高い。普段の外出 支援をまだまだ改善していく べき課題として、職員で向上 できるように検討を重ねてい る。年度ごとの行事計画が策 定され、季節感を意識した外 出企画にて、利用者の楽し みになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	本人様が金銭を保管することは トラブルにつながるのではと 事務所の金庫で保管し、必要 時に出して使うようにしてい ます。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様が希望されればその都度対応しています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人では、毎日の掃除時の換気、リネン類の洗濯や天日干しを行い、共用空間では壁面飾りで季節感の演出をしています。	施設前を流れる川の水鳥の鳴き声が聞こえたりと、街中の施設であるが静かで過ごしやすい環境がある。1階は暗くなってしまうことから、白色灯を入れて明るさに配慮しており、各居室入り口には暖簾があり、プライバシーに配慮しながら居室を開けて、風を入れている。作った作品を通じ季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファに座って話をしながらテレビを観たり、食事の席で隣席の利用者様と会話をされることもあります。また職員も会話に参加し楽しい時間を過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れたものを持ち込んだり、家族写真を飾られたり、穏やかな気持ちになれるような空間になっています。	入居前には、住んでいる部屋をみて参考とし、今までの暮らしに近づけるように意識している。仏壇や家族用の椅子など、個人の調度品も自由に持ち込みができ、本人・家族に選択肢を広げてもらえるようにしている。外出した時は必ず撮った写真を居室に掲示し、楽しみを振り返り喜びに繋がる取り組みがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりや室内はバリアフリー対応なので安全に生活できる環境となっています。		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	各職員が名札を付けていて、名札の裏には事業所理念が付いており常に確認ができるようになっており、実践に近づけられるよう努力をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設周辺の方の高齢化もあり、頻繁な交流は減っているが、避難訓練などにお声をかけさせてもらい、合同の避難訓練を行う声かけなどをさせてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括様と協力し、地域の方と入居者様合同の健康や認知症の教室などを開き当事業所を会場として使っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度運営推進会議を開き当事業所の状況報告やご意見・ご提案などを聞かせてもらい、サービス向上に努力している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	推進会議だけでなく、日頃より連絡を取り協力関係を深めるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員への勉強会も行い、身体拘束への理解はできてきている。今後も身体拘束や玄関先などの施錠に関しては柔軟に対応していきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待や身体拘束などの勉強会を開き、知識の向上と防止に役立てている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開くなどし制度の理解をより深め関係者と話し合い提案が出来るように努力する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が契約などの際に必ず十分な説明を行い理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関付近に意見箱を置き、誰でも意見・要望を伝えられるようにしている。また、意見などがあればフロアーミーティングや推進会議等で報告・検討をする。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアーミーティングや職員の食事会などで話を聞き、出来るところから改善や変更を行う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現段階ではあまり出来ていないと感じる。今後、職員が気持ちよく働けるように努力したい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修への参加や施設内での勉強会を行う働きかけをし、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外の研修や講習会への参加を促し、同業者との交流の機会を作っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に管理者やケアマネがご本人・ご家族と面談し、説明や要望を聞いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前やサービスを開始する際に管理者やケアマネがご本人・ご家族と面談し、説明や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前やサービスを開始する際に管理者やケアマネまた職員がご本人・ご家族とお話をさせてもらい対応させてもらう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が個々で入居者様との信頼関係を築く事で一人一人が共同生活の一員となり支援する関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員には入居者様一人一人に担当を付け御面会などで来所されたご家族様に報告や提案をさせてもらうことで関係を築くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所へ行くことは難しい状況であるが、ご近所様などの御面会や短時間の外出などの際に近くを通るなどするように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアーミーティング等で入居者様同士の関係や関わり合いなどの情報を把握し、孤立しないように支援するように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了してもご本人やご家族様がお困りの際は相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員と入居者様の何気ない会話などから情報を聞き出し、希望に添えるようミーティングなどで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前の聞き取り情報などを基に入居後もご本人・ご家族に話を聞かせてもらい、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日申し送りを行うことで一人ひとりの一日の過ごし方を把握・理解して暮らしの状況の把握に努める。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロアーミーティングや家族様の面会時などの際に話を行い状況に合った計画を作成する努力を行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月に一度のフロアーミーティングや申し送りノートなどを活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて要望にはこたえる努力をしているが、状況により取り組みに時間がかかることもある為、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	フロアーミーティングなどで入居者様の情報の把握と共有することで現在の生活環境での役割などを決め声掛け支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族様とかかりつけ医の橋渡しとなり、受診の際は生活の状況報告や質問・提案などを文章にさせてもらい主治医の先生との関係を築くよう支援させてもらっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者様への気づきなどをその都度、看護師に報告し指示を仰ぐよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された病院のソーシャルワーカーと頻繁に情報交換を行い、退院時の受け入れ準備などを早期に行えるように関係を気づいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時にもご説明をさせてもらい、入居者様の状況に応じて本人・職員・家族・主治医と情報の共有と相談を行いチームで支援をする体制を整えるように努力する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会や講習会に参加しマニュアルを把握しながら実践力を身に付けるように促している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行う際に町内会へ合同訓練の開催の提案等を行い協力体制の強化を図る。		

自己評価	外部評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は接遇の勉強会を行い人格の尊重とプライバシーを損ねないように心がける。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中から本人様の希望や要望を聞き出し、希望に添えるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のペースに極力合わせながら、その方の望む生活を支援するように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	声かけを行い、本人の希望に添えるように努力している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	認知症の度合いもあり現在、一緒に食事の準備を行うのは困難となっており、片付けなど一緒に出来ることを少しでも行ってもらえるように声掛けをさせてもらっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一日の食事・水分量をチェックし記録することで対応している。水分量は一日の一人当たり1500mlを目標として声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に声掛けにて口腔ケアを行い，必要な方は月に一度、歯科往診で口腔内のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一日の排泄状況を記録でチェックして極力トイレでの排泄支援を行うように声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給に乳製品や豆乳を提供したり、体操などを行い便秘の改善を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	なかなか入居者様の希望の時間帯や曜日・回数などに応えられていない。職員の確保などを行い，希望に応じた入浴支援が出来るように改善したい。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居者様ペースに合わせ時間を みなから職員が声掛けを行い無 理なく安心して休めるよう支 援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	各入居者様の内服薬の処方箋を ファイルに綴じ、随時確認がで きるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	各入居者様の力量や役割に合わ せた声掛けを行っている。また 、気分転換で季節に応じて散歩 等の支援も行う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	外出は残念ながら希望に添えて いないのが現状であり、近場へ の短時間の散歩ぐらいなので、 希望に添える外出支援に組み 組んでいきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	現金を所持することは残念ながら 紛失やトラブルの原因となるた め行えないが、月に1度パンの 訪問販売が来るのでその際は自 分の好きなパンを選んでもら うようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望あれば電話や手紙の支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた掲示物や空間作りを行い、快適に過ごせるように努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの周りにソファを置きくつろげるようになっている。共用空間で独りになれるあしよは現在はない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	住み慣れたお部屋にあった物を持参していただき、本人が心地よく過ごせる空間を提供できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員が個々の能力に合った自立支援を声掛けなどで一緒に行うように努力している。		

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 西町グループホーム

作成日 平成30年6月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援を行っていく。	四季折々の景色や空気を入居者の方に肌で感じていただく。	一斉の外出は難しい為、1対1の外出を増やしていく。	3ヶ月以内
2	19	家族との関係作りに努める。	施設内での行事の参加を呼びかける。	敬老会・クリスマス会。花見会等、大きな行事計画を立案する。	3ヶ月以降より実施していく
3	2	地域との交流を増やす活動をしていく。	施設内での行事の参加を呼びかける。	敬老会・クリスマス会。花見会等、大きな行事計画を立案する。	3ヶ月以降より実施していく
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。